



元気いっぱい、笑顔いっぱい、社会に出ることを心待ちにした児童がそろう学校

朝霞第二小だより



【学校教育目標】 進んで学習する子(知) 仲良く助け合う子(徳) 健康で明るい子(体)

〒 351-0007 朝霞市岡 3-16-13 TEL048-461-0042 FAX048-467-4735
令和4年 10月1日(10月号) 児童数 710名(9/26現在)

読書の秋

校長 宮腰 高子

空が澄み清々しい秋を感じる頃となりました。「〇〇の秋」という言葉が多く目にされますね。さて、今回は「読書の秋」に目を向けたいと思います。10月27日～11月9日は、読書週間です。読書週間は、戦後間もない1947(昭和22)年、「読書の力によって、平和な文化国家をつくろう」という決意のもと、公共図書館、出版社、販売会社・書店が力を合わせて、第1回『読書週間』を開催したことが始まりとのことです。「本は、心の栄養」「本は、頭の栄養」「読書は人生を豊かにする」等と言われます。育ち盛りの子供たちは、純粋な心と豊かな感受性を備えており、一冊一冊の本との出会いはとても大切で、その子自身が社会に出る心の支えや羅針盤になります。良い本に出会い、じっくりと向き合える時間と環境を用意したいものです。



また、ご協力いただいている「音読」の宿題ですが、授業の中でも多く取り入れているところです。これは、内容を理解するだけでなく、語彙数を増やしたり、日本語の言葉の響きやリズムの良さを感じるのに欠かせません。引き続き「音読」のご協力をお願いします。お子さんの読みを聞いたり、時には代わって読んだりするのもお勧めです。

さて、私のお気に入りの本の一つに壺井栄さんの「二十四の瞳」があります。小豆島を舞台にした新米教師と子供たちのお話です。初めて読んだのは小学生の時で、「子供たちが仕掛けた落とし穴に大好きな担任の先生が落ちて大怪我をしてしまった」場面をはらはらしながら読んだことを覚えています。この本をその後に3回読み返しました。教師になりたての頃、子育て真っ最中の頃、後輩の教師が増えてきた頃です。驚いたことに、その時その時で、違う場面で心が動かされました。小学生の頃より読解力が高まったからもあるかもしれませんが、経験や立場が違ふと感じることや考えることも違ふのだと思います。以前に読んだ本を読み返す事や、新たな本を読む事は、今の自分を知る事にもつながる。また、他の人は違う感じ方をしているかもしれない。そう思うと、読書をするのがますます楽しみになります。



【図書館で読み聞かせ】

朝霞第二小学校には図書館司書や学校図書館支援員そして、図書委員の児童がおり、学校図書館の環境整備をしたり読書に興味を持てるようにイベントを催したりしています。蔵書は約14,000冊、毎年300冊以上の新しい本を入れています。授業中だけでなく休み時間も、図書館は静かに大賑わいしています。読書の秋、子供たちがより多くの本に触れられるように声をかけていきます。